

タイ特集 昭和興産タイランド、HDD関連資材など好調

2026年6月8日

無料公開 タイ特集（2026年）



北川孝之社長

昭和興産タイランド（北川孝之社長）は、昭和興産のタイ現地法人。中期経営計画「チャレンジ2026」の最終年度を迎え、モビリティ・情報電子、ライフサイエンス、インフラを成長分野と位置づける。自動車・家電の減速が続く中、電材や食品で補完し、収益基盤の安定化を図る構えだ。

モビリティ・情報電子は、中国メーカーの低価格攻勢や生産分散の進展で家電分野が厳しい。一方、データセンター需要を背景にハードディスクドライブ（HDD）関連は好調で、工程資材や化学品が伸長。モビリティはタイの自動車生産が150万台規模に落ち込み、回復の遅れが課題。電池材料は足元で停滞するが、中長期の成長分野として提案を継続する。

ライフサイエンスは食品が安定。冷凍食品向けなど機能性素材の提案に加え、タイ発原料の域内・日本向け輸出を進める。ローカル顧客の開拓も視野に入れる。メディカルは医療機器関連で実績を積むが、制度面の制約もあり段階的な拡大を見込む。

インフラは電線・ケーブル向け原料などが堅調。とくにデータセンターなど情報インフラ関連が需要を下支えする。

「タイ市場は加工貿易型から地産地消・分散生産への転換期にあり、事業再構築が課題」と北川社長は分析。同社は電材や食品など安定分野とのバランスで収益を確保する。特に「サステナビリティ」をキーワードに、リサイクル材や環境配慮素材の需要拡大を捉え、供給ソースと提案力の強化を進める。

来年に設立30周年を迎え、グループ現地法人の中で最も歴史のある旗艦現法。その長い歴史から取り組み分野が多岐に広がり、厳しい分野があっても他分野でカバーできる強い基盤を構築。今後は中国やインドネシアなどのグループ現法とも連携し、ハブ機能強化で更なる成長を目指す。